

<保護者の皆様へ>

こんにちは。スクールカウンセラーの室井尚巳(むろいなおみ)です。

2 学期は行事が多く、人間関係が広がると日常が楽しくなります。新学期に「グループに入れなかった」と思っている子ども達にも良い機会になりますね。

しかし「行事は気を遣う場」となる子には、かなり疲れる時期になります。精神的な疲れは学習意欲もそいでしまうので、いくら「勉強しなさい」と机に向かわせても、結果につながりにくく、「やらされている」状況では、頭打ちしやすいです。

今回は勉強が苦手にならないよう考えたいと思います。



学習は保護者が強制して取り組めるのは幼いうちだけです。成長するにつれて自発的な取り組みが重要となり、結果が伴わない場合に「努力不足」と捉えられてしまうと、自己肯定感は下がる一方で、勉強が苦手になりやすいです。

走りが速い子がいれば遅い子もいるように、少しの時間で覚える子がいれば、なかなか定着しない子もいます。集中力が維持できない、ガミガミ言われてやる気をなくすなど、勉強を苦手を感じる要因は様々です。

小学校では学習に必要な能力がまだ安定していないことがあり、ある時期以降にグンと伸びる子もいます。勉強嫌いにならないよう注意点をあげてみました。

- ・勉強嫌いの理由は何かを探る
- ・得意を伸ばし、肯定的な話し方で
- ・小さな成功体験を積む
- ・自分で選択させる
- ・周囲の期待からの解放
- ・環境を整える…など



望ましくない成績だと心配かもしれませんが、勉強への苦手意識が強くなり消極的になると、その子の良さが発揮できず、生きづらさにつながる場合があります。

子育ては一生懸命すぎると苦しくなるかもしれません。保護者自身が変わりたいと思っても難しいこともあります。困ったときは、ぜひ一緒に考えさせてください。